

令和7年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的とする。

2. 事業の概要

（1）後援

吉備中央町教育委員会

（2）期日

事前学習会：令和7年6月8日（日）

受入：令和7年6月19日（木）～6月23日（月）4泊5日

（3）参加者

① 募集人数

ホストファミリー15家族程度

② 参加人数

ミクロネシア諸島参加者 24人

ホストファミリー参加者 45人（16家族）

（4）会場

事前学習会：公立学校共済組合岡山宿泊所「ピュアリティまきび」

学校訪問：吉備中央町立加賀南小学校

（5）講師等

事前学習会（英会話教室） 池田 好美 氏（YoshimiEnglishSchool）

（6）企画・運営のポイント

- ① 事前学習会を設けることで、ホストファミリーに対して事業の概要を説明したり英会話教室を行ったりして安心してホームステイに取り組めるようにした。
- ② SNSを随時更新し、ホストファミリーやフォロワーに活動の様子を伝えた。
- ③ 文化の違いなど参加者が困りそうなことを予測し、動画等を活用し事前に伝えたり活動ごとに振り返りを行ったりした。
- ④ 当所職員も英語を用いて積極的なコミュニケーションを図った。
- ⑤ 全所体制で実施し、全職員でおもてなしの心を持って参加者と接した。



【事前学習会①】



【事前学習会②】

3. 活動の内容等

(1) 日程

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
1日目	6/19 (木)	11:30 岡山空港着										移動	昼食	岡山城 見学	移動	入所式 宿泊準備	夕食	入浴		休憩	就寝
2日目	6/20 (金)	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	学校訪問			昼食	晴天：カッター活動 荒天：焼き板			休憩	夕食	ホストファミリー 交流タイム		入浴	就寝	
3日目	6/21 (土)	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	ホームステイ													
4日目	6/22 (日)	ホームステイ									交流会		振り返り	自由時間	夕食	片付け 荷物整理		入浴	就寝		
5日目	6/23 (月)	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	準備	岡山空港 送迎	岡山空港 自由時間 搭乗手続き		12:25 岡山空港発										
		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			

(2) 活動の状況



【岡山城見学】



【学校訪問】



【ホストファミリーとの交流タイム】



【ホームステイ①】



【ホームステイ②】



【レセプション(交流会)】



【花火(サプライズ企画)】



【退所式】

4. 成果・課題

(1) 満足度（日本人参加者）

満足：94% やや満足：6%

(2) 参加者の声（日本人参加者）

- ① もっと一緒に過ごしたかった。2泊3日にしてほしい。
- ② ホームステイで外国に行ってみたくなった。
- ③ 食事やダンスで文化の違いを感じられたからうれしかった。
- ④ 今度は一緒にカッターやキャンプをしてみたい。

(3) 成果

- ① 事前学習会では、基礎的な英語を用いた日常会話の演習を行った。ホストファミリー同士で行うことで交流が生まれ、楽しく当日を迎える気持ちが高まった。また、講師サポーターの留学生やこれまでに受入経験があるホストファミリーから参加者との過ごし方を聞くことができ、新規のホストファミリーにとって安心感につながった。
- ② Instagram担当の職員を配置し、活動直後に随時動画や写真を投稿した。この取組は事前学習会で予告しており、参加者の様子をホームステイ前に知ることができて、ホストファミリーは当日を楽しみに迎えることができた。また、参加者やホストファミリーなどからフォロワーを新たに48人増やすことができた。
- ③ 当所での過ごし方について説明する際は、動画を中心に説明した。ゴミの分別やシーツのたたみ方、入浴の仕方をはじめホームステイ先で過ごす際のことまで伝えた。実際に取り組み、できたことは積極的に褒めるように努めた結果、参加者の喜びや自信につながっていた。その都度、振り返りを行うことで異国の文化に適応することに対しても、前向きに取り組む気持ちになっていた。また、日本での過ごし方を説明した際のスライドをホストファミリーにも見せることで、当所職員とホストファミリーの思いを共有することができた。
- ④ 一朝一夕で英語力を身に付けることは難しく、英語でのコミュニケーションに躊躇する職員もいた。しかし、拙くとも英語でコミュニケーションを取ろうとすることで、参加者と良好な関係を築くことができた。

⑤ 本事業は全職員で取り組んだ。準備や片付けはもちろん、心を込めたおもてなしの気持ちで参加者を迎えた。当所では日ごろから退所時の見送りをしている。玄関に足を運ぶことが自然なこととなっており、本事業の期間中、施設の発着時には事務室から可能な限りの職員が出迎えと見送りを行うことができた。参加者が喜んでいたことはもちろん、当所職員も同じ気持ちであった。普段行っている当所での取組が利用者にとって良い時間になっていることを実感し、これからも続けていきたいという気持ちになった。

また、「当所にあるもので効果的に活用できていないもの」を積極的に活用した。普段事務室にある当所のマスコットキャラクター「ウーリー」や吉備中央町のマスコットキャラクター「へそっぴー」のぬいぐるみを各部屋に置いたり、花壇で育てている花を生けたりして部屋を彩った。吉備にはまだまだたくさんの魅力的なものがあり、活用することが施設の向上につながると感じた。

後日シャペロンの Instagram を見ると、所内の景色とともに「Good food. Good place. Good people. Domo arigato gozaimasita.」という投稿があり、全職員の気持ちが伝わったと感じた。



【各部屋に配置されたぬいぐるみ】

（４）今後の課題

ホストファミリーを集めることが困難であった。前泊時の費用負担が大きな理由として考えられる。実際に、前年度のホストファミリーより申し込みの意思はあるが、決して安価ではない費用がかかってしまうという理由から応募には至らなかった家族が複数あった。ホストファミリーが集まらないことはそのことのみならず、事業準備に大きな影響を及ぼす。参加者とのマッチング、部屋割り、ホストファミリーへの連絡と準備が徐々に滞ってしまった。ホストファミリーの確保が事業の円滑な運営に大きな影響があることを来年度に引き継ぎたい。そして、早期にホストファミリーを確定し、内容をより良くすることに時間を充てることができるようにしたい。

担当：企画指導専門職 八木 雄治